

平成28年度 秋田県生涯学習センター運営委員会 議事録

期 日 平成29年1月13日(金)
時 間 午後1時30分～午後3時
会 場 生涯学習センター視聴覚室
出席者 運営委員8名
生涯学習課及び
生涯学習センター職員10名

1 開会

2 所長挨拶

平成28年度秋田県生涯学習センター運営委員会を開催するにあたり、まず以て委員の就任のご承諾をお礼申し上げます。

本日はお忙しい中、また更にはお足元の悪い中御出席いただきましたこと、日頃より貴重なご助言・ご支援をいただいておりますことに、この場をお借りしまして感謝申し上げます。

当センターにおきましては、運営の基本方針でございますように、「元気な秋田づくり」に努め、「知と行動が結びついたクリエイティブな循環型社会」の実現と、「地域の活性化を担う人材・行動人の育成」を目指し、職員一丸となって、生涯学習支援機能の充実に努めて参りました。県全体の財政状況が厳しい中、当センターも例外ではありませんが、今後も職員一同、当センターの使命を果たすべく、施策及び事業のより効果的・効率的な展開をして参りたいと思っております。

運営委員の皆様におかれましても、短期的・長期的視点にこだわらずに、当センターの今後の運営に対する忌憚のないご意見やご助言をお願いしたいと考えております。

本委員会が実りのあるものとなりますよう祈念いたしまして、開催の挨拶といたします。

3 出席者紹介及び資料確認

資料1・・・平成28年度生涯学習センター事業について

資料2・・・今年度事業の進捗状況及び次年度事業について
(あきたスマートカレッジ等)

資料3・・・今年度事業の進捗状況及び次年度事業について
(各種研修事業、調査研究、自主企画講座支援、
生涯学習支援システム、「行動人」Webサイト等)

資料4・・・施設利用状況等について

4 委員長及び副委員長の選出

規程に基づき選出された委員長、副委員長を承認
(議事進行を務めることも確認)

5 案 件

(1)「秋田県生涯学習センターの事業運営の在り方」について

- ・各班長より資料1～4に基づいて今年度事業の進捗状況及び次年度計画について説明
- ・意見交換

A委員 生涯学習・社会教育関係者実践講座について、7地域で開催しているが、各市町村からの要望があつて行っているのか、それとも別の基準で選定を行っているのか。

学習情報班長 実践講座については、県北・中央・県南と2回程度の実施を基本としている。実施にあたっては、毎年同じ市町村にならないよう調整を行っている。また、県側からの要請で行う場合が多いが、市町村からの要望であっても、参加者が集まりやすいとか様々な部分を調整しながら実施するようにしている。

副委員長 行動人の登録状況が増えており良いことと思う。以前に井川町の行動人の紹介に関わる担当市町村が1月と聞いていたが、うまく伝わっていないように見えたので、より良い状況伝達をお願いしたい。

また、行動人の人数を各市町村に割り当てていたと思うが、現在も各地域で同じくやっているのか。

学習情報班長 年度の初めに教育事務所を通じ、各市町村へ2団体の行動人を推薦していただくようお願いしている。行動人Webサイトでの紹介が5月から1月頃まで全県全てを紹介するようにしている。井川町の紹介が1月であったが、当センターと教育事務所、更に市町村との連携がうまくいかなかったことは反省している。

いずれにしても、市町村の割り当ては、出来るだけ平等にとというのがスタンスであるが、紹介については常に受け付けており、意欲のある方などは、随時紹介していただきたい。

副委員長 こちら側も理解不足であった。行動人の紹介に関しては、全県全ての行動人を紹介する意識でいるので、他の市町村にも働きかけていきたい。中でも秋田市が大所帯であり紹介がうまくできていないところもあるので、今後進めていく際に、指導・助言をお願いしたい。

また、行動人を紹介するシステムについては、地域において頑張っている人が見えやすいことや、実践されている方々などの励みとなる非常に良い企画と思うので続けていただきたい。

B委員 当センター利用状況について、平成23年度から利用者数が増えているが、要因について特定できるものはあるのか。

総務班長 貸館においては、第2研修室の稼働率増加からも伺えるように、パソコンを学ぶサークル団体が新規登録も含め、増えている。また、一般企業などが、新店舗を展開する際の職員研修などでの利用が増えていることが、主な要因と捉えている。

- 学習情報班長 展示ホール等利用促進ということで、生涯学習で頑張っている団体・サークルに作品等を玄関ホールに展示を勧める働きかけを行い、積極的に展示ホールを活用する活動を行っている。人気のある展示は多くの観覧者が見受けられ、その方々も利用者数に含まれており、大きな要因と捉えている。
また、地域で開催する実践講座等の参加者も利用者数に含まれている。
- 学習推進班長 あきたスマートカレッジにおいては、昨年度と比較すると定員が増えており、それに伴い受講者数も増えている。
- B委員 地域で開催する実践講座等の参加者は、年度で比較するとどうなっているのか。
- 学習情報班長 過去3年くらい1回あたりの参加者を比較すると、増えていることが伺える。
- B委員 地域で開催する講座は、高齢者やなかなか外に出られない方々にとっても非常に良い事業と思う。大変ではあるが、頑張っていて続けていただきたい。
- 副委員長 防災ゼミについての内容について教えてほしい。
- 職員1 今年度行った防災ゼミについては、1回目は座学を行い、2回目は移動学習の形で実施した。県庁の出前講座の一環で行ったわけだが、1回目の講師である総合防災課職員は、東日本大震災での被災地に入られた方で実感のこもったお話をされた。
2回目は、岩城少年自然の家のバスを借り上げて、防災学習館の視察や岩城少年自然の家で防災体験活動を行った。次年度においても、防災ゼミは実施する方向で進めていきたい。
- C委員 一昨年、県企画振興部でシニアを対象とした地域貢献塾が立ち上がり加入した。第1回目の会合の参加者は30名程度であり、男性が3名でその他はほぼ女性だった。後日、バスで移動見学を行い、八郎潟の浦城、油谷これくしょん及び博物館を訪問したが、その際の参加者もほぼ女性が多かった。
いずれ、様々なボランティア活動や催し物に参加しているが、同年代の方がなかなか見受けられない状況と感じている。全体的に当センター利用者数が増えているのは、良いことと思うが、今年度、当センターで実施した講座等での参加者の年齢層は、どのようになっているのか。
また、シニアの参加者を集客させるための対策等を講じているとすれば、どのような対策をとっているのか。

学習推進班長 あきたスマートカレッジ講座での参加者を見てみると、60歳代、70歳代が90パーセントを占めている状況である。また、シニアと呼ばれる方々を受講対象者として集客しているわけではなく、様々な年代の方に、興味をもっていただくような魅力ある内容を展開するよう心がけている。

更には、平日働いている方や学生、日中時間がとれない方を考慮して土曜日開催を中心に実施しており、来年度は、講座の一部ではあるが、夜の講座も考えているところである。

いずれにしても、幅広い年代の方々が利用できるような講座を目指していきたいと思っている。

C委員 先日、県民会議に参加した際に、ボランティア活動における話を交わす機会があった。こちらでの参加者は、同年代の方々がたくさんいた。参加者の心の中では地域貢献したい気持ちがあるが、実際は様々な催し物に、参加できていない状況である。

いずれにしても、あきたスマートカレッジにおいては、これ以上の講座はなく、素晴らしいと思う。参加したい、地域貢献したい気持ちはあるのだから、魅力あるものをうまく伝えるようにつくりあげ、参加という状況に、引っ張り出す対策が大事であると感じており、スムーズに参加できる環境づくりをお願いしたい。

所長 秋田寿大学や秋田長生大学など、高齢者が集まり学んでいる団体があるわけだが、その方々の活動する場所が少なくなっていること、また、一番の問題は、会場に集まる際の手段と聞いており、交通機関の問題がある。

そのようなことから、地域で開催する講座等が増えていくことが、良い策であると思うが、予算面及び交通機関などがうまくいかず、やる気を引っ張り出せない状況がある。

いずれにしても、魅力ある講座といっても興味が違う方々もいると思うので、今後、研究していきたい。

C委員 県で主催するイベント等の案内には、必ずといっていいほど、駐車場が狭いので公共交通機関を利用するよう記載されている。その日だけでもよいので、例えば会場までのバスなどを増やすような実施の仕方はできないものか。

所長 類似した件で、民間のバス会社などに依頼した事はあるが、その時は、バスの台数や運転手の確保など難しい状況である回答であった。

いずれ、昨今の過疎化や人口減少などの背景も影響しているのではないかと感じている。

委員長 当センターだけでの問題ではなく、様々なところとの連携や関わりで対処することであり、構造的に秋田県は避けられないと思う。

県や市町村どこで開催しようが共通の問題であり、声を上げていくことでより良い開催状況ができることを期待したい。

- 副委員長 地方に行くワンコインバスなど、便利なところもある。だが、色々な条件が合わなければ実施は難しいことであるので、関係機関との連携など頑張っていたきたい。
- 職員 1 先ほどの、あきたスマートカレッジにおける参加者について、補足させていただくと、当センターの北条シニアコーディネーターの文学講座では、初めは女性が多かったが、最近は男性が増えてきている状況である。
また、当センターの窓口に来られた男性からは、ここでこのような講座を実施していることが分からなかった旨の話をされた。
いずれ、来年度の講座を受講したいという方は、着実に増えている。
今後においても、魅力ある講座づくりやより良い情報の提供を行い、参加者の参加に繋がるように努めていきたい。
- D 委員 例えば児童会館では、2歳児の母親が集まり、友達づくりから英語サークルを作って活動したり、子育てとは違う方向へ向かうこともあったりする。
何かを起業したい、NPO等で何かをやりたいと思っている方々、また、様々な業種の方々が集まると色々な思想が芽生えたりする。
当センターでもその様な部分を応援するような事業などの計画はないのか。
- 所長 起業という部分は、当センターの事業趣旨とは違うと思う。むしろ様々な同好趣味の方々が集まっている貸館での利用は多く活用されており、活動の場を提供している。
- D 委員 貸館というのは、すでにグループになっている方々が研修室等を借りることなのか。
- 所長 そのとおりである。そのグループがどの様な声かけをしながら、参集しているかは、把握していない。
- D 委員 いずれにしても、今後、当センターにおいても、きっかけづくりを働きかける事業も求められると思うので、検討していただきたい。
- E 委員 私もボランティアとして活動しているが、ここ数年ボランティアをする方々が少なくなっている状況である。参加者を募る手法として、ボランティアをやらなくてもよいので、まずは、教養講座・座学を行って、参加するようお願いする。その中で学んだことから、ボランティアを行う働きかけを行っている。
確かに、座学には多くの方が参加してくれるが、ボランティアとなると参加する人は減ってしまう。1人で学んだり、静かに勉強するのは好きだけでも、人前に立って色々な取組をするのは苦手である方々が多いようだ。
当センターと一緒に地域・ふるさとを回って歩く講座につい

ては、応募が多い。我々もボランティアの活動で、各地区を案内して説明している。参加者からは、自分の住んでいる地域だが、改めて知ったことや、新しい発見をしたと言っていた。

そのような意味では、1回引っぱり出してやれば、その後に繋がるのではないかと感じる。

町の中で、知りたい、勉強したいという人はかなり多いと思う。講座などを構成する際、少しでも興味のあるものを考えながら、1回でも引っぱり出してやれば、それが起点となって広がっていくと考える。

先ほど、交通機関の話があったように、私自身でも案内等を行う場面がある。講座等の内容が好きなものであれば、どのような交通手段が良いかなど自分で調べて会場に赴くと思うので、興味をもつことや仲間意識をもたせるなど、きっかけをつくってやって、一歩でも半歩でも引っぱり出す講座なり内容なりをみんなで考えた方が、より活性化に繋がるのではないかとと思うので、参考にさせていただきたい。

委員長

自分にとって意義があったり興味があったりすると、どんなに遠くても足を運ぶ行為をしようと思う。当センターが情報提供する際に、単純にホームページだけでなく、色んな形でセンターの催し物を知ってもらわなければならないと思う。イメージをもってもらうことが、様々な事業に影響すると思う。

特別な情報提供と考えるのではなく、利用している方や、学習している方に対して、色んな所でセンターの価値・良さを伝えるのが大切ではないかと思う。

F委員

あきたスマートカレッジの学習案内の中で、これからパソコンやスマートフォンを学ぶ方への内容であるが、そもそもWINDOWSやWordなどの言葉自体が分からない方がいるのではないか。

他の講座でも、例えば、あきたの歴史を学ぶとか個人やその日の学ぶ目標はあると思うが、それを学ぶことによって、このような自分になれるとか、この様な事ができるとかの長期的な目標をもてるような告知があってもよいのではないか。

また、この講座を受けることによって、このような場所でこのようなボランティア活動ができるとか、受講することが目標・目的ではなく、ワンステップ・ツーステップ先を掲げることによって、更に上を目指す人や新規の参加者を募ることができるのではないかと感じる。

私の所で昨年取り組んだ番組制作の1つに、加茂水族館と大森山動物園の館長さんの対談番組を行った。水族館と動物園は環境は違えども、生きているものを育てる共通点があるわけで、普通は、1つのテーマで1人の講師の方が講演するスタイルが主であるが、同じテーマを同じような立場の職業に就いている方々に対談のような形で行うと、様々な引き出しからの話も聞くことができる。

今後、新しく講座等の内容を考える時に、1人の講師ではなく、共通テーマで、共通点のある方同士の講演・パネルディスカッションなども良いのではないか。

学習推進班長 次年度において、委員の皆様からの意見によって、実現できそうなものがあるので紹介する。

行動人の基礎コース・実践コースを設ける予定である。これは、この様な姿になりたいという部分を具体的に掲げている。行動人とはどのようなものかを学んで、1人ではなく2人以上の行動人からお話ししていただき、行動人の姿をつかんでいただく内容になる予定である。

また、実践コースでは、技術的なことはもちろんのこと、ビデオで地域紹介することで、地域の魅力について学んで、素晴らしさと活動を繋いでいくこととしている。

更に、地域の方々と交流することで、地域の課題を共有し、地域活性化に繋がるよう議論していただいて、講座をつくるどころまで展開する運びになる内容も計画している。

いずれにしても、委員の皆様のご意見などは、次年度以降も講座運営に生かしていきたいと思っている。今後においても、具体的なご意見等をお願いしたい。

E委員 新しくボランティア活動をされる方々には、座学などを行って教育するわけだが、その内容は、殆どとっていいほど当センターからいただいている。いずれにしても、ボランティアの育成などにおいて、当センターが拠点・原点となって広がっていているということを再認識していただき、これまで以上に頑張っていたきたい。

A委員 昨年、秋田県公民館大会を男鹿市を会場に、「人づくり、地域づくり、絆づくり」をテーマとして、男鹿市、潟上市、南秋田郡の主催で開催した。そのような、公民館連合会が主催する大会において、大会テーマが合うことによって、県の事業と絡めることは可能か。

学習推進班長 来年度のあきたスマートカレッジについては、ほぼ骨格が決まりつつあるので、共同実施は難しいところである。いずれ、その後においては、公民館連合会との共催は可能と思うので、要望があれば相談していきたい。

委員長 当センターの事業体系は、大きく分けると「調査研究の推進」、「研修事業の充実と指導者養成」、「生涯学習活動の推進」、「学習情報提供の充実」となっており、それぞれの項目で目標を推進し、充実を図って進めていると思う。

例えば、調査研究であれば、調査研究だけでなく事業に結びついていかなければならない。更には、基礎講座の基礎があり、実践があると思うので、資料1の表中で示すと縦の連携が必要である。基礎講座に参加された方が、実践講座に参加し、結びついているのかなど、検証していただきたい。

いずれにしても、事業間の連携、縦の連携をより鮮明にすることで、当センターの大きな役割である地域で活躍する方や市町村担当者を育てていくことに繋がるのではないか。

また、年度単位での基本方針も示されているが、5年、10年先は
どうするのか、だから次年度はこの方針で進めるというような、長期
的な展望、又は年度を越えたを構想を立てて進めることが必要である。
最後に、あきたスマートカレッジは事業として3年と聞いていたが、
今後の展望を教えてください。

学習推進班長 あきたスマートカレッジについては、3年間の事業である。次の事
業の名称等は未定であるが、新しい形になる時には、これまでのもの
を踏まえて、より時代に則した学びの場を提供していくことになる。

所長 来年度のあきたスマートカレッジには、少しでも若い人を呼び込み
たいという思いがある。年齢層を広げることが、次に繋がって
いくと思う。
また、少ない部分ではあるが、高校・大学と繋がっているところも
あるので、そのようなところをどの様に取り込んでいくのかが、今後
の課題となる。必然的に、あきたスマートカレッジ事業もその様な方
向性をとっていかなければならないと思う。
いずれにしても、形自体は少しずつ変えていくが、来年度について
は、次への準備と捉えている。

副委員長 行動人について、行動人が活動を相談したり、活動するだけでなく
発表の場ができ、結びついてきている形が見えて良いことと思う。
また、当センターは、地域で活躍する方の生涯学習の原点となって
いるので、今後においても、優良な研修等の実施をお願いしたい。

6 諸連絡

7 閉会

- ・ 所長謝辞 本日は、熱心にご議論いただき、ありがとうございました。委員の皆様
の熱意に応えることができるよう頑張りたいと思います。
皆様のご意見を元に、当センター業務及び一人ひとりの職員の業務の更
なる改善を図って参ります。
この度、「引っ張り出す」「踏み出す」というような、キーワードをい
ただきました。確かに、当センターに来られる方は、常連というか固定客
というところが見受けられます。常に来ての方には、引き続き来ていた
だけよう、更には裾野を広げるようにしていく方針であります。
いずれにしても、これまでの企画を精査しながら、継続する企画につい
ては、より一層内容の充実を図り、楽しい学びの場の実現を目指して頑張
っていきたいと思っております。
当センターの業務は、少子高齢化問題を抱える秋田県の今後に対しても
大きな役割を果たしていけるものと、強く感じております。
今後とも、真摯に業務に向き合い、我々職員が誇りある仕事をしている
という強い意志をもって業務に取り組み、皆様から愛される生涯学習セン
ターを目指していきたく思いますので今後ともよろしくお願い致します

す。

なお、現在の運営委員の皆様は、平成29年10月31日までとなっており、このメンバーでの運営委員会はこれが最後となります。

来年度改めて委員の選任をさせていただきますが、再任ということもありますので、委嘱願いの際には、よろしくお願い致します。

本日はお忙しい中、たくさんの貴重なご意見をいただきました。

委員の皆様のご助言・ご協力に感謝申し上げます、終わりの挨拶いたします。